

明日に向かって

ともに創る

(126)

大船渡市長 戸田公明

3期に及んだ市政目標について一考 その1

市政目標「多様な地域課題の克服に挑戦し、地域産業を活性化して市民所得の向上と人口減少の歯止めを全力を尽くします」を掲げ市政を担う中、多様な課題に直面しました。その都度、先送りせず対応し続けて今日を迎えています。

以下に主な事例を紹介します。

1 就任1週間後の市議会一般質問で「当局は質問に答えていない」との発言！

市政推進には、市議会と市当局の意思疎通が非常に重要であり、この発言を受けることそのものが問題です。次

期市議会から、毎回、通告質問に対し100%直球を投げる思いで答弁書案を作成すべく職員を指導し続けた結果、やがて同様の発言は無くなりました。

2 就任後、国保財政の安定した運営のため、国保税の大幅値上げが必要との報告！

試算したところ、必要な値上げ幅は「なんと52%」でした。市議会全員協議会を経て、平成24年度に累積赤字解消の資金投入とともに、半分の26%値上げを行い適正化（赤字の解消、翌年度

予算からの流用中止）しました。結果、半分の値上げで8年間維持出来ました。

3 日本近海の水産資源は大幅に減少しているとの水産学者からの重要情報教示！

この教示を受け、平成25年以来、市では三陸沿岸都市会議や県市長会などを通じて水産資源の科学的な管理を対国要望（やがて全国市長会でも取り上げ）し続けました。国は平成29年度から資源管理の高度化に方針転換しています。今後は水産業の成長産業化が期待されます。

4 震災後、市の支援を通じて多くの若者が起業し地域産業活性化に貢献！

平成25年、市役所内に起業支援室を設け「なりわい未来塾」や「未来創造塾」「ビジネスアカデミー」「ビジネスプランコンテスト」など、市や大船渡商工会議所などが主催する事業を通じて、多くの若者が起業し、地域経済発展に貢献しています。

5 市ホームページでの新着情報発信量が飛躍的に拡大！

就任前10年間の市ホームページによ

る新着情報発信量を調べたところ、なんと「数件/年」でした。これでは時代に遅れることから、庁内会議で情報発信拡大を指示したところ、程なく「数件/日」の約300倍に拡大し、今日の市政情報の発信量に繋がっています。

6 各種要望への回答を書面化することにより効率向上と市政の情報共有が拡大！

毎年秋、市議会会派・地区公民館などから要望がなされます。市からの回答は伝統的に口頭のみでしたので、要望団体との市政情報共有が極めて限定で非効率でした。平成25年から回答を書面化することにより、情報共有がなされ、市政改善に繋がっています。

7 永年課題の気仙地区と内陸を結ぶ高規格道路について方向性が打ち出された！

平成28年から近隣3市1町と関連団体により対県要望中の「国道107号改良整備」が、昨年度、「新白石トンネル」事業化決定と、「(仮称)大船渡内陸道路」に位置付けられ、地域高規格化の方向性が出されました。今後は期成同盟会を通じて早期実現を目指します。このほかにも多様な課題に対し、その都度、対応してきましたが、これが直接・間接に地域産業の活性化にも結びついていると考えられます。多くの関係者のご協力をいただきましたこと、改めて感謝します。

大船渡市市制施行70周年・北里大学海洋生命科学部創立50周年 特別講演会

「豊饒のカナダ西海岸・ベニザケの旅」

- ▷日時＝10月10日(月・祝)午後3時～5時
- ▷会場＝三陸公民館 大ホール
- ▷参加料＝無料
- ▷定員＝120人(先着順)
- ▷申込期限＝10月7日(金)
- ▷申込方法＝氏名、電話番号を電話で連絡いただくか、参加申込書に必要事項を記載し、直接持参、Eメール、ファクスでお申し込みください。申込書の様式は市ホームページからダウンロードできます。
- ▷申込先・問い合わせ先
企画調整課(☎内線214/☎264477)
【Eメール】ofu_kikaku@city.ofunato.iwate.jp

講師プロフィール



内藤 洋

ないとう ひろみ

1956年香川県生まれ。

カナダ・バンクーバー在住。自然や動物の写

真をメインに撮影する写真家。北里大学水産学部4回生。北アメリカ横断、南北アメリカ縦断の写真撮影の旅を行った経験もある。また、講演会やラジオ出演を通して、自身の経験を伝えている。